資料１

前回（第３回）会議の概要について

〇小中学生に1人１台のタブレットが配布され、生活習慣の中で、タブレットやスマートフォンの利用頻度が大きくなっている。
紙の本を読むだけが読書ではない。特に中高生や大学生は、タブレットやスマートフォンでの読書に変化している。

〇市内の小中学生は読書の時間が長い。その要因の一つとして、「朝読」や「家読」など、学校等での取組があり、成果をあげている。この水準を維持していくべき。

〇ＹｏｕＴｕｂeを活用している図書館が増えている。よって、市内の子供たちには、動画視聴など、様々なコンテンツに触れることができる環境整備が必要。

〇家庭の中で家庭学習の場所がない子供のために、自治体や地域が場所を提供することが必要。

〇メール便の運行経路に学校図書館を加えてほしい。また、地元の人が使う場所（ショッピングセンター）にブックポストなどのアクセスポイントを増やしていくことも方法の一つ。

〇メール便の体制は、最低限、今のネットワークを残すことが大事。検討する際は、住民の利用頻度、コストなどバランスよくすることが大切。

〇どの自治体も図書館サービスをくまなく行っていくべきか悩んでいる。本を渡す必要があるのか、ないのか、という段階まで来ている。

〇図書館は、読書施設と情報施設の２つの役割がある。

〇図書館の今後の方策、図書館の機能について、「地域資料の網羅的収集」、「地域の活性化」、「就学前の乳幼児に対する読書の推進及び読書の機会の提供」を加える。

〇次回会議で、ボランティア団体から意見を聴く。

〇次回会議では、今後のあり方の原案を示していく。